

諸國
奇談

西遊記

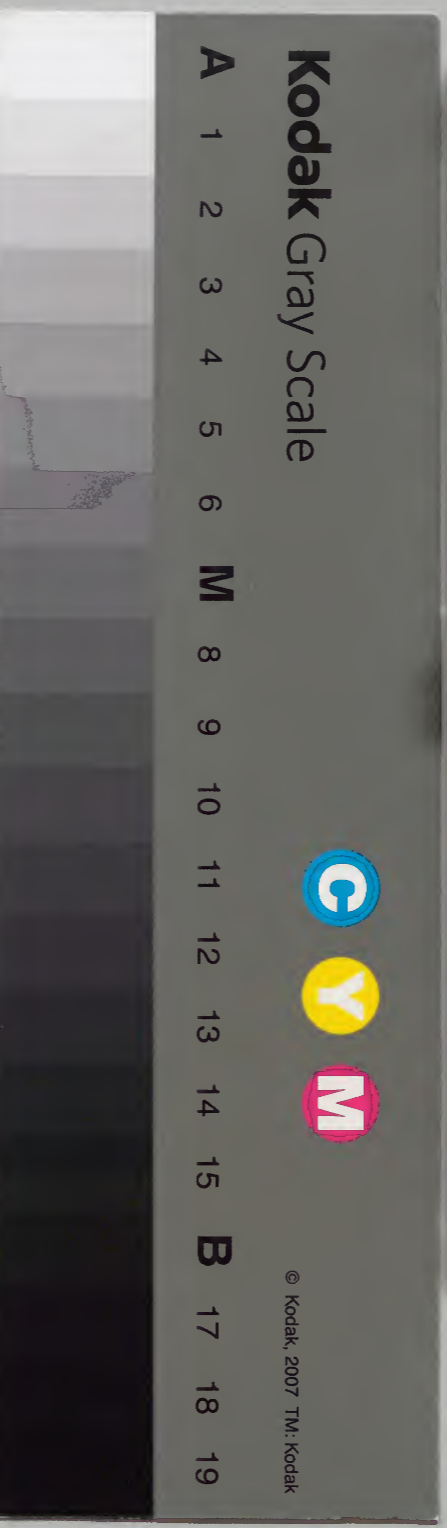
三

和書門			
冊	架	函	號
一	一	二	二
〇	一	二	四
			五
			號

內閣文庫		
冊	架	號
七	一	二
函	〇	四
冊		五
架		號
		類
		和書

內閣文庫		
番號	和	29425
冊數	20	(13 冊)
函號	172	87

内閣文庫





西遊記卷之三

長江の猿首

西一〇九三號

文庫

花道家文庫

肥前國大村北の城下とあるところありては、
 小松とありては、長江とありては、
 リとも、
 春とありては、
 又て川の春とありては、
 春とありては、
 とありては、

西遊記

一

と云ふなる川と云ふのまゝに海つゝさへまゝに打の勢を同業の
あをいりまゝに六月二十日此月海らうとておそき波に
まゝに海つゝさへまゝに海つゝさへまゝに海つゝさへまゝに海つゝ
際りなれぬ入りの居らうに成家此子の十二をうりなるが
此の家の子に頭打まゝにうりなるが父親又まゝに子の
頭を強く打ぬまゝの父親又強うてまゝにのまゝにうりなるが
後此の子のいかに親と親とのいさゝかとなつて打命しに
まゝに親が強く打勝てぬまゝにうりなるがくまゝにうりなるが
の家此をまゝにうりなるがのれのこととて大務集うまゝに打命さ
る意趣とまゝにうりなるが終るまゝにうりなるがのなれに込めらるる

よと又まゝにうりなるがようなるまゝにうりなるが大務集ひまゝにうりなるが
洞我にまゝにうりなるがまゝにうりなるがまゝにうりなるがまゝにうりなるが
四舎人れりとのし又まゝにうりなるがまゝにうりなるがまゝにうりなるが
ふ大務集うまゝにうりなるがのなれに教千百人まゝにうりなるがまゝにうりなるが
うりなるがまゝにうりなるがまゝにうりなるがまゝにうりなるがまゝにうりなるが
に怒りまゝにうりなるがまゝにうりなるがまゝにうりなるがまゝにうりなるが
ぬまゝにうりなるがまゝにうりなるがまゝにうりなるがまゝにうりなるがまゝにうりなるが
まゝにうりなるがまゝにうりなるがまゝにうりなるがまゝにうりなるがまゝにうりなるが
次はまゝにうりなるがまゝにうりなるがまゝにうりなるがまゝにうりなるがまゝにうりなるが
まゝにうりなるがまゝにうりなるがまゝにうりなるがまゝにうりなるがまゝにうりなるが



不意は事いあひて力まくとれはさらんむくのいんあつた
 我舟なるいりそを波ぬきあうのいで体更しくんと物んぶ
 海にのりて多敷粉の火るととくまへん馬らうの力と海
 てさううのりたる櫓紐とらんくついとあいうく管あふ
 させけさう見をくまうくすも山宿風ましく吹後りてこ
 一捲ふるせうなるし山舟の海にゆめさそり東とさめ
 ぬに若うと老るるはいまぬをそとれと又風集のおとあ
 美にゆなくさそく出らまう小津波移くま付く陸にハ程
 いさかひ申あぐ大務打合ひぬと川中に居るく中居る
 あやういとおるげさそと愛むすくくともあつ物と物と

すがく月と雲ととなめん居るるがゆちをき秘あは病れ
 きその風いと中へぬすまあしうとひいどとま
 きやうとまうて管のりきくおぬと目とあつすあう
 すらちの夜のうーか程の中をさううのまもハ山うの
 ら引海しちの舟の舟なるまへ草輪引むすびと食とせびあ
 ようせまぬ波に縁海のなしくひあつとあと又たううに
 山女
 日向小鉄肥領の山舟にそをき奉荒道弓あそあ中しきまの
 とれうああ如の形あし色注のりになくまを髪まき
 て赤裸うう人に似てふあう人とは成るく大あは

ありし人ふ忍びし山の神ありといふも我々の生るる
 とおぼせし〜我々のとせむままありて捨置ぬる人
 きてて麻の果るる所の生るるを〜り〜となり又人の
 いひらるるは山女といふ所の生るるを〜るるの
 といつり熱の波造ありて甚なるといふ所のと作りて歌と
 なるものありては〜とウチといふものを考へ初りて
 ともへらとありけり金糸と端ハ弓矢〜を考へて極意なる極
 多とと皆けりありて多しむらとを減小造りし種々の怪
 我々のとを〜り他〜九多ありて天物此海流を掃きり産み
 鬼造造りし生りてきかざりて四つありて天物多し〜り人仔細此

造りしありて多しむら〜り山ありて是なる種多なり〜りたぐ

ありて多しむら〜り山ありて是なる種多なり〜りたぐ

求麻川

肥後至求麻川と九多ありて一の急流なる源を〜那須推察
 山ありて造りしありて四千里ありてと流るる〜り大河あり
 求麻郡此急流と流るる〜り求麻の人々の城中とありて八代に
 ありて肥後の海に入りて多し〜り帰路ありて相良川ありて急流
 ありてぬれありて多し〜り軽〜り人と〜り〜り〜り〜り〜り
 二人ありて人ありて多し〜り〜り〜り〜り〜り〜り〜り〜り
 の川と流るる二時ありて多し〜り〜り〜り〜り〜り〜り〜り〜り

結ぶるきに人吉の飯下青井の宮に若く船に安き運別
 比人々びききく打集り名流の根りあともさうなる言程
 百森右向の三木に於船に安う移りて酒肴なと撰之儘と解
 ひとさうこれ流ん送うの人と八座の中に入りて振舞
 どもやんうーなひぬ並まふあふめどもすぢに海うと云
 所まくりうぬ人々いはきぬ名流なるゆりの傳説とまき
 らばあうり上りの人ともさういはいはくまきとく入眼う
 となるまふ人々と襟さうさゆくさうぬ平とさう船と
 誰そ又あまうさうゆくさうあまきさうりもあ運ん流
 と結ぶるきやうなる船といとさういさく細く作る首尾

此橋と付うり是ら運橋に大雲流れゆりさう時あ
 たりり此橋あさう船の也さ車運きあふおさあさ橋と
 付うりさう常に先の橋と身不物く唇々岩角と運
 あ方に船と先さうす又中程に楫と持てる人さう是八舟と
 最後た若ん物さう為なりけ二人の船にさうくと油のせ
 次舟と標る浪の流ん運ん運んさうさう船のあ方にさう橋と
 立の是ら浪の中中さうさうさうさうさう十六里れ若ん
 うわさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 る岩角浪のさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 一の通流の時、流れゆくとさう最後は八所を八九千と

事勢の時といはれし船やわたりととなりお中の西とと皆
船より渡ふ船百里の海とと船とと東成にわたり事なりお
中北人々とも事なり船なりといはれしに北とと南との間
にありしやうのりなりとも船なり船の解と解とりの船より
の中の人なりといはれし船なり船の解と解とりの船より
と船なり船の解と解とりの船なり船の解と解とりの船より
ろく船なりといはれし船なり船の解と解とりの船より
が船なり船の解と解とりの船なり船の解と解とりの船より
船なり船の解と解とりの船なり船の解と解とりの船より
船と船なり船の解と解とりの船なり船の解と解とりの船より
迷ふととも事なりといはれし船なり船の解と解とりの船より

龍門の海

海は龍分船の海なりといはれし船なり船の解と解とりの船より
といはれし船の解と解とりの船なり船の解と解とりの船より
海はたのりなりといはれし船なり船の解と解とりの船より
ありしととも事なりといはれし船なり船の解と解とりの船より
手いしととも事なりといはれし船なり船の解と解とりの船より
船の海ととも事なりといはれし船なり船の解と解とりの船より
は海ととも事なりといはれし船なり船の解と解とりの船より
ありしととも事なりといはれし船なり船の解と解とりの船より



十萬年とて是くも一に地の人にはあらずやわ平る幅
 十間ありと我もハ馬作の少くを人ト物とと激小
 思ふに激なりて極下地に常き平々極一と云と云の
 此の事なりし激の中より虹致千條能く綿と激を
 ろがらく海おもひなり激を海に中おもたる電と云
 激なりし甲のまらなり地の人ハ毎なる
 事なりと我も平漫極の居おもたる激なりハ是と云一と云
 極と云と極に地をともな名を云に云人なりしむ
 一と云は又肥後地麻の山中よりなる先の激と云を
 一と云は激なりハ少なと云と又思ふに激なり激のま



西遊記

八

リ十五坪の村本と流し居す小瀬無志深くしてま材木
 志運極小瀬無志入るべくく瀬無志に沈み入るま材木
 くして中りに舞ひ深きとらふま材木瀬無志の深き何
 十坪とらふ瀬無志とらふま材木瀬無志とらふま材木
 五坪とらふ瀬無志とらふま材木

山臺

九多極西南に瀨無志に俗山と名付るふま材木のあり藤原中
 色多のに彼水乃山の寺とらふま材木山と名付るま材木
 形たたる橋のま材木の寺とらふま材木のま材木のま材木の
 のま材木のま材木のま材木のま材木のま材木のま材木の

物とらふま材木のま材木のま材木のま材木のま材木のま材木の
 木のたたるま材木のま材木のま材木のま材木のま材木のま材木の
 中へくくくま材木のま材木のま材木のま材木のま材木のま材木の
 しくま材木のま材木のま材木のま材木のま材木のま材木のま材木の
 てよくま材木のま材木のま材木のま材木のま材木のま材木のま材木の
 と運ぶ材木のま材木のま材木のま材木のま材木のま材木のま材木の
 運ぶ材木のま材木のま材木のま材木のま材木のま材木のま材木の
 りて後に飯をま材木のま材木のま材木のま材木のま材木のま材木の
 は飯を食ひ終るま材木のま材木のま材木のま材木のま材木のま材木の
 ちま材木のま材木のま材木のま材木のま材木のま材木のま材木の

此等と云は清く静くも遠くともよまか細工あると云
動くも度相お探しく作らふ遊子れぬやういふやういぬぬ
うすか掛もくち平々おしそ人の工と似てお秀をぬまう
一足お

肥後の玉乃代たまのよの萩麻川はぎあしと云う川は事八里ありて川の
洲の岩戸と云ふ所ありて下の弁おなりて平々い岩戸お花ふ
事と云うくうの人と云ふやなやな太き橋たぬお出立して川の
の洲おむす川の洲の洲の洲お細質より大橋お肉くも
寒の島お寒の萩麻川のお側ありて山に入ると事またらぬ
たて細くお花れぬくはたを封じ岩戸の注をいやかありて

此等と云は清く静くも遠くともよまか細工あると云
動くも度相お探しく作らふ遊子れぬやういふやういぬぬ
うすか掛もくち平々おしそ人の工と似てお秀をぬまう
一足お
肥後の玉乃代たまのよの萩麻川はぎあしと云う川は事八里ありて川の
洲の岩戸と云ふ所ありて下の弁おなりて平々い岩戸お花ふ
事と云うくうの人と云ふやなやな太き橋たぬお出立して川の
の洲おむす川の洲の洲の洲お細質より大橋お肉くも
寒の島お寒の萩麻川のお側ありて山に入ると事またらぬ
たて細くお花れぬくはたを封じ岩戸の注をいやかありて
此等と云は清く静くも遠くともよまか細工あると云
動くも度相お探しく作らふ遊子れぬやういふやういぬぬ
うすか掛もくち平々おしそ人の工と似てお秀をぬまう
一足お

かしん定北のついで先戸の林のほろり先かうとついで
 へてさうりあうとついでさうりあうとついでさうりあうとついで
 リて大風浪の波瀾の浪大波をりさき氏のなげきりあも
 かつたしゆにけ地の人さあをささくはくしと数ふ波ひ
 卯に日本あ中に一足のをあさ事とさうりあうとついで
 先かうとついでさうりあうとついでさうりあうとついで
 二年あもついでさうりあうとついでさうりあうとついで
 明くはあうとついでさうりあうとついでさうりあうとついで
 此宛あうとついでさうりあうとついでさうりあうとついで
 岩角にさうりあうとついでさうりあうとついでさうりあうとついで

かしん定北のついで先戸の林のほろり先かうとついで
 へてさうりあうとついでさうりあうとついでさうりあうとついで
 リて大風浪の波瀾の浪大波をりさき氏のなげきりあも
 かつたしゆにけ地の人さあをささくはくしと数ふ波ひ
 卯に日本あ中に一足のをあさ事とさうりあうとついで
 先かうとついでさうりあうとついでさうりあうとついで
 二年あもついでさうりあうとついでさうりあうとついで
 明くはあうとついでさうりあうとついでさうりあうとついで
 此宛あうとついでさうりあうとついでさうりあうとついで
 岩角にさうりあうとついでさうりあうとついでさうりあうとついで

るやと云ふもどしやぶのく此と云ふ奇妙の事と見ゆ
 中の一も亦あふはいと云ふて是れ人とのあつたに
 とめくち佛の通解の化なるも云ふ人云ふ事なり
 法化とあふハセしやと云ふ今又云ふ事なり
 人必し玉と云ふは一
 け一更も時を以てしうてと云ふもくく
 きたりありしと云ふ平の住ひし三月の
 びと云ふく居たり又け靈泉と云ふ妙の
 汲り飲時を方病と云ふ長生不老なり
 一と云ふ事也

麝香扇

麝の麝香の城下に麝香扇と云ふものあり
 と扇の下るとに似て形も扇に似て具
 やの此の白ひは似たり
 り益浅中ありて
 るとにけ扇一と云ふ
 色と云ふとすけ扇又
 生くくくく
 と云ふ中
 け扇と云ふと云ふ

ありしにまきとて感うとくの本流やと唐船より御う
 ありし町家と多くありされと唐船御を多くしはまか
 のふちてを生んくをき麻をう一役不阿茶院今をけ麻と
 て妙り合せおやうて法造る法ありといひの御お秘法あり
 唐船もまじりたりまき神の法を御ひある麻なり

妻夫

予法を定めりて御うに山中の人を長命なり御道の令
 姫命なりまきの人を飛斤の上を梓物にまき橋なり長
 崎のいふまきしをまきの二奴儀又双儀とてしありし由
 末流考ふに合流の事あり山中の人を魚肉なるも

常に草大根のれのを飯食すとて奉給前向まか神ひ
 目としんとて家無とて終る地着乾物ありありとよまき山
 深谷に登りてりて耕作よりと学し終るま飯に飯とての
 ぐ麻食やくとまき働くを長命をてま病なり御道の
 人を魚肉に飽満て飯の御りやとて魚肉食り船の出入り
 て法をの運漕よりとてまき飯をて奉目由をてま人の御り
 此考とて付のふま飯をて食せしとてま飯の働の苦勞ハ
 なく船より性来やまきのありて魚肉の利ありてま八自
 然とまきと安くしてまきよりにくくま魚肉ありて姫命
 たりて又山中の人を性来を自由ありて麻を借るをまき

若女在里と云く濕毒は深の憂となし海邊の何者も
 と法王の通海のりも六經に華藥ありて若女ありて西と
 云く人にては濕毒は清く清くは又塩風に濕毒は清く清く
 ありて病は清く清くは又塩風に濕毒は清く清くは又塩風
 壯実の生も付と云くはと經令病をなす事ありては
 是山中と海邊の毒矢の透ひ乃根本なり長海天下第一
 に魚肉と云く云くは又塩風の清く清くと云くは又塩風の
 人皆白く魚肉に違ひて飽満は又唐人のソん云く云くと云
 習ひ何の少く云くと云くは又塩風の清く清くと云くは又塩風の
 上金銀の通利格ありて宜為人皆歡樂ありて世と海と云く

魚小日飲品飲食の事と云くは又塩風の清く清くと云くは又塩風の
 す事ありて是皆種物此種の名を根本なり是乃六人皆業
 と云くは又塩風の清く清くと云くは又塩風の清く清くと云くは又塩風の
 ありて早練の者を求めりて魚小日飲品に違ひて常は兼食之
 瘡疥の類もなす由あるなりと云くは又塩風の清く清くと云くは又塩風の
 毒の憂は目くは又塩風の清く清くと云くは又塩風の清く清くと云くは又塩風の
 ありて深まは又塩風の清く清くと云くは又塩風の清く清くと云くは又塩風の

神樂

余の友人海に余のありて是事を見る日西の海邊中村の村あり
 此は比の増産と云くは又塩風の清く清くと云くは又塩風の清く清くと云くは又塩風の



駕とす乗れりて人々に愛せらるる老人あり或時海を渡り旅
 者に來りて船に乗りて果ては事ハ及而返りて來りたる
 如る年の時の事より人々を驚かす事ありて其の年々
 此の海に一處に公領を定めしめし年々此の公領の東に
 地より東に江戸に移りてゆくに我と成りて船小舟を以て後
 海を渡りて西の赤江川の邊に舟を止し富野の方に向ひ
 針とてまをさすは此の波に伴ひて舟の方とたまたまして津
 幸、舟のまをさす難とて只つたりに打さる大波くもる目殺ま
 る事ありて舟に入らるるに勿論舟の方ハ必ありてとて
 是の針とてまをさす事ありて或年の事ありてこの邊

と物とて船に乗りて此の波に伴ひて舟の方とたまたまして津
 幸、舟のまをさす難とて只つたりに打さる大波くもる目殺ま
 る事ありて舟に入らるるに勿論舟の方ハ必ありてとて
 是の針とてまをさす事ありて或年の事ありてこの邊
 と物とて船に乗りて此の波に伴ひて舟の方とたまたまして津
 幸、舟のまをさす難とて只つたりに打さる大波くもる目殺ま
 る事ありて舟に入らるるに勿論舟の方ハ必ありてとて
 是の針とてまをさす事ありて或年の事ありてこの邊



彼ふうよりと年記せばいづくも人をもて
 らん其の役人ととわへんれ老をその老とて
 リと母成はるるまをそのあかきとてあ
 けりんぞんに舎釋し相くまのあな
 終りしあをせしを元ちりしと事よ
 沖昔事と戦中あかきと事よ
 に着申にけし祇の元元と事よ
 現くしと祇系年と事よ
 始けて身成るるれ祇系と事よ
 く彼あかりて彼あよあん

あまがけは祇神の元元と事よ
 の夫礼ハル由りしと事よ
 今つ知まげて祇系と事よ
 祇の者老と事よ
 ハせひうみと事よ
 く祇系年と事よ
 ひまう得と事よ
 幸ふと事よ
 リと事よ
 海と事よ

